

47才男性(妻が乳がんを経験した)より

体験記 ～ふだんの健診の大切さを～

南あわじ市出身で、いまは神奈川県で暮らしている男性です。

長男が中学3年生、次男が小学5年生のときに妻の乳がんの罹患がわかりました。

僕は、乳がんの妻を支える、支える側の家族の立場です。

その中で、感じたことを少しだけお話しします。

当時を振り返ると、年末ある日、風呂上がりに妻が

「なにかこないだから気になるのがあるけど、高校受験もあるし、

次男の空手の大会の応援もいきたいし、家のことも、家事も、育児もあるし、

何かあったら困るし、まあ、もうちょっと様子してみる」と言っていたのを思い出します。

無事、高校受験もおわり、春の日に近くの大きな大学病院に検査の申し込みしたけど、いざ、検査したい!と思うときほど、予約待ちがたくさんあり、結局GW明けまで検査ができませんでした。

この時、すでに季節は6月でした。

しこりに気になってから、半年も経過してしまっていました。

それから、手術、抗がん剤治療、放射線治療と標準治療をフルコースで行いました。

妻の乳がんは、トリプルネガティブ乳がんという、少しやっかいなタイプでした。

治療は順調にいていましたが、2年後に再発・転移、そして、5年が経過しようとしていた2022年の末に旅立つことになってしまいました。

正直、たくさんの後悔があります。もっとこうしてあげればよかった。

もっとしてあげたいことたくさんありました。でも、もう叶いません。

だけど、もし時間が戻せるならあの日、なぜ、妻に、早く病院に行くことを

強く言わなかったのか。仕事を休んででも連れて行ってあげなかったのか。

また、普段から、健診を受けることを主人である僕も、もっと意識しておかなかったのか。

とか、考えてもキリがありません。

～ 隣にいる旦那さんや、お子さん、ご家族へ ～

乳がんは、女性だけの問題ではありません。

妻が乳がんになり、「乳がんの奥さんを抱えて大変だね!」とか
「仕事してる場合じゃないね」とか、まわりから特別視され、仕事もたくさんなくなりました。

何も手につかず、仕事にいくといいながら、一日中、喫茶店で過ごしたことも何度もありました。

どう支えていいかもわからない日々の中で心をすり減らしながら、
それでも妻の前では笑顔で寄り添ってきました。
もちろん、どうしようもなく、何度も何度も喧嘩もしました。

同じように、子供たちもたくさんの影響をうけます。
ヤングケアラーとして、学校にも親友にもママが乳がんであること、また、
ママが亡くなったことさえも言えずに我慢して過ごしています。

乳がんは女性だけの問題ではありません。

だから、男性も子供たちも、ぜひ一緒に向き合い考えてほしいと思います。
ほんとうにたくさんの影響を受けます。受けました。

それが、早期発見で最小限で済むなら
ぜひ、検診を受けるように、また受けやすいようにまわりの僕らがしてあげてください。

「皿洗いも風呂掃除もしとくよ!今日はちょっと自分の時間つかいなよ!」でもいいし、
「子供のこと見とくから、美容院行って、カフェ行って、ついでに、乳がん健診どうかな?」
とか、小さなきっかけを届けてあげてほしいです。

それが、大切な人を守ることができる、
大きな力になると信じています。

まずは、一步、今日できることから

